

JEC＜諫干検証委＞の 「中間総括」と今後の方針＆予定

寺西俊一（JEC＜諫干検証委＞全体総括責任）

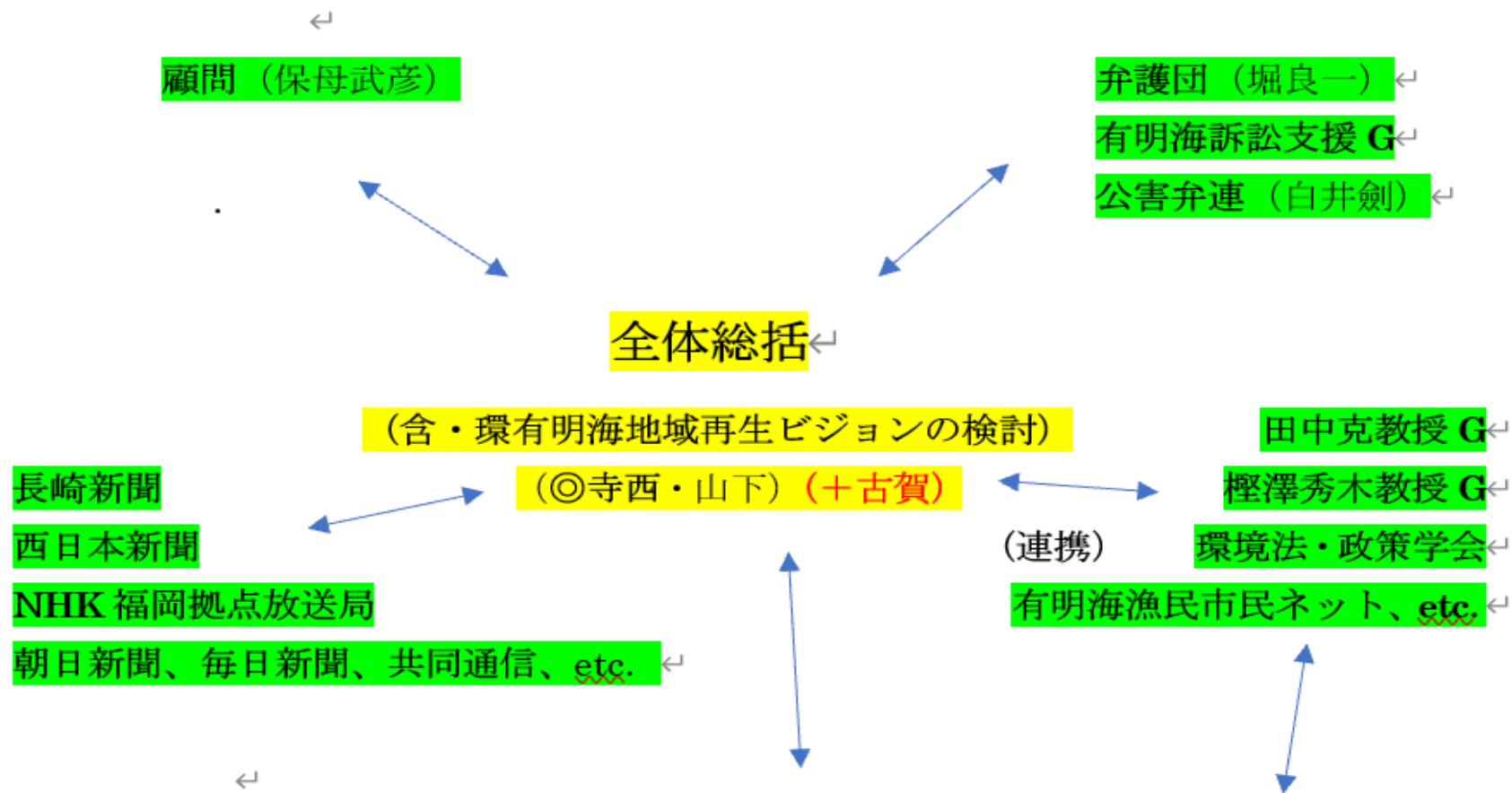
2020年12月26日（土）、於：「第9回全体会議」

日本環境会議(JEC)

「諫早湾干拓問題検証委員会」(＜諫干検証委＞)の取組み

- * 2019年09月13日：最高裁（2018年7月福岡高裁上告審）、福岡高裁へ差戻判決
- * 2019年11月17日：有明訴訟弁護団＋公害弁連＋JEC(寺西)の合同会合
- * 2020年01月31日：JEC事務局会議で「諫早湾干拓問題検証委員会」設置案
- * 2020年02月21日：福岡高裁差戻審 第1回弁論期日＋報告集会（寺西出席）
- * 2020年03月15～16日：「諫早湾干拓問題検証委員会」予定メンバー現地調査
- * 2020年03月17日：長崎新聞、西日本新聞、朝日新聞：JEC現地調査の報道記事
- * 2020年04月12日：長崎新聞の取材記事（「公共事業、研究者が検証」）
- * 2020年04月25日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第1回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年05月30日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第2回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年06月13日：ETV「引き裂かれた海～国営諫早湾干拓事業の中で」放映
- * 2020年06月27日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第3回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年07月25日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第4回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年07月25日：『環境と公害』50巻1号（小特集：諫早湾干拓問題）刊行
- * 2020年08月22日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第5回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年09月18日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第6回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年10月17日：「干拓地営農」の実情に関する特別研究会合（Zoom会議）
- * 2020年10月24日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第7回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年11月21日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第8回全体会議（Zoom会議）
- * 2020年12月26日：「諫早湾干拓問題検証委員会」第9回全体会議（Zoom会議）

JEC「諫早湾干拓問題検証委員会」の取組み体制



*WT1：干拓事業全体 (含財政・防災) の検証 (○碓山・宮入・関・菅波+森)

*WT2：漁業・水質・生態影響等の検証 (○大森・西林・中山) +佐藤・高橋・堤

*WT3：農業・地域経済社会影響等の検証 (○藤谷・石倉・羽島・渡邊・川尻)

*WT4：法的諸問題 (含・環境アセス) の検証 (○磯野・大久保・長島+磯崎)

<検証対象としての「諫早湾干拓事業」の経緯>

諫早湾における干拓事業計画の変遷 (単位：ha、億円)

西暦年	構想・計画の名称	事業の目的	締切面積	造成面積	調整池面積	総事業費	完了予定年度
1952年	長崎大干拓構想	長崎県の食糧自給	10,094	7,299	2,795	1,350	2000年度
1965年	国営長崎干拓事業	①優良農地の造成（水田） ②高潮、洪水の防止	10,094	7,299			
1970年	長崎南部地域総合 開発計画	①優良農地の造成（畑） ②高潮、洪水の防止	10,094	6,454	3,640	1,350	2000年度
1986年	国営諫早湾干拓事業 （当初計画）	①高潮、洪水被害の防止 ②優良農地の造成（畑）	3,550	1,840	1,710	1,350	2000年度
1999年	第1回計画変更	同上	3,550	1,840	1,710	2,490	2006年度
2002年	第2回計画変更	同上	3,542	942	2,600	2,460	2006年度

注：『平成14年度決算会計検査報告』第4章「特定検査対象に関する検査状況，国営諫早湾干拓事業の実施」等から作成。

＜諫干検証委＞における基本論点①

「諫早湾干拓」は、構想・事業計画そのものが二転三転の末、

①高潮や洪水被害の防止（「総合防災干拓」の看板）

②優良農地造成による干拓地営農の実施

上記2つを目的を掲げ、1989年11月着工、2008年3月終了。

最終計画での総事業費は約2,530億円、約7キロの潮受堤防

で湾奥部を閉め切り、2008年度から干拓地営農の入植開始。

＞土地改良法に基づく「国営諫早湾土地改良事業」が正式名称

＞この「公共事業」としての総括（「公共性」の検証）が必要

ex. 「（戦後）日本型公共事業の典型的事例」 by 宮入興一(2019)

＞「事業の目的」および「事業の効果（結果）」が、本来の

「公共的利益」（Public Interest）に適うものとなっているか？

ex. 「諫干事業」の「費用便益比（B/C）」についての推計評価

* 当初計画（1986）＞1.03、* 第一回計画変更（1999）＞1.01

* 第2回計画変更（2002）＞0.83 by 宮入興一(2006)

<諫早検証委>における基本論点②

「事業の目的」の第1に掲げられてきた表看板
（「総合防災干拓」）にみる虚構性・欺瞞性

- ＞1982年：金子岩三農水大臣（当時）による
「長崎南部地域総合開発計画」（南総計画）
の打ち切り後、「水害対策」を表看板にした
「諫早湾干拓事業」計画が浮上
- ＞農水省のもとに「諫早湾防災対策検討委員会」
の設置、同委員会の中間報告書（1983年）
- ＞諫早市を含む周辺自治体の住民は、「防災」や
「水害対策」という表看板に惑わされている？

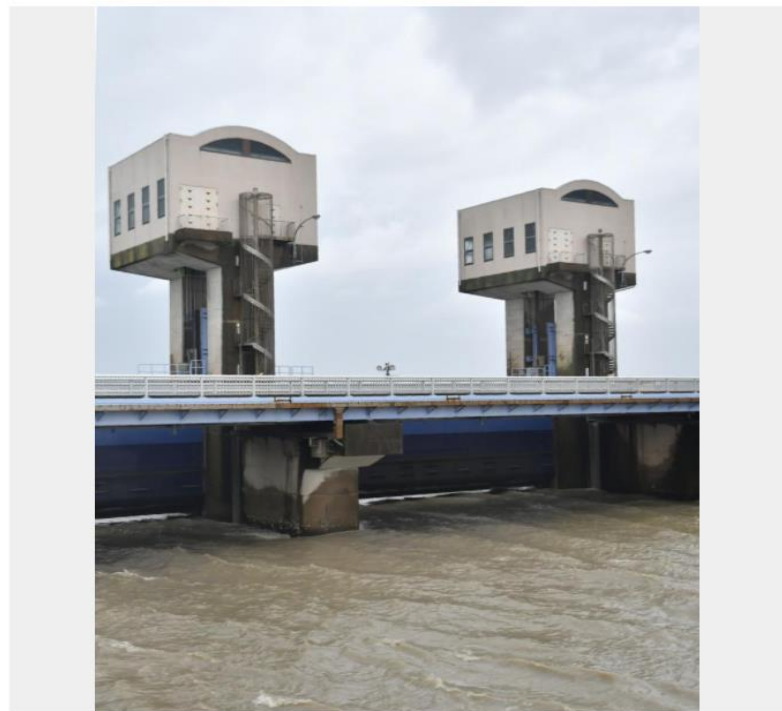
『産経新聞』2020年7月25日付(地方、長崎版)の記事

「見えないダムが守ってくれた」九州豪雨で諫早、大きな被害なし 干拓の調整池、治水機能発揮

2020.7.25 07:08 | 地方 | 長崎



反応



干潮時には、手前の調整池側から、有明海へと排水する＝10日午後、長崎県雲仙市

九州の広い範囲を襲った豪雨は各地で河川の氾濫を引き起こし、甚大な被害をもたらした。ただ長年、暴れ川と恐れられてきた長崎県諫早市などを流れる本明川の流域一帯では大きな被害は生じなかった。地元住民からは、国営諫早湾干拓事業で完成した淡水調整池による治水機能に救われたと評価する声上がる。(九州総局 中村雅和)

「これまでなら水が出ているだろう。少なくとも床下(浸水)までは覚悟しないといけない。でも今はそんな必要はない。心配はしていない」

10日午後、自宅で取材に応じた諫早市自治会連合会の古賀文朗会長は、冷静な表情でこう語った。

諫早湾干拓・「防災」問題の要点

諫早湾干拓（潮受堤防建設、農地・調整池造成、調整池水位の△1m管理・淡水化）の「防災」効果には、3つの側面があり、立体的に把握する必要がある。

	影響するエリア	効果があるか	代替可能か
高潮対策	新干拓地および 諫早湾沿岸の低平地 ・旧干拓地	効果を発揮している。	高潮時以外の「開門」は 十分に可能。 堤防撤去の代替は難題。
洪水対策	本明川等、諫早湾流 入河川の中流域 （諫早市街など）	洪水を貯水する機能 はあるが、 諫早大水害 のような洪水を防ぐ効 果はない。	代替不要。 （国交省が本明川水系の 洪水対策を実施している）
排水不良 対策	新干拓地および 諫早湾沿岸の低平地 旧干拓地・低平地	平常時の排水は改善 した。 洪水時の排水対 策としては極めて不十 分。	排水路・排水ポンプ増強で 代替可能。 「開門調査」を 契機に整備することは 地元にも大きなメリットが あるはず。

注：JEC＜諫干検証委＞第3回全体会議(2020年6月26日)、菅波完氏提供PP資料から。

＜諫干検証委＞における基本論点③

「諫干事業」とりわけ潮受堤防による諫早湾奥部の締め切り（ギロチン）による貴重な干潟生態系の消滅、それに伴う魚介類の産卵・生育場所の喪失、調整池の水質悪化、漁業被害の深刻化、有明海全体としての環境異変の進行、そして沿岸地域における持続可能な経済・社会・文化の衰退化など、

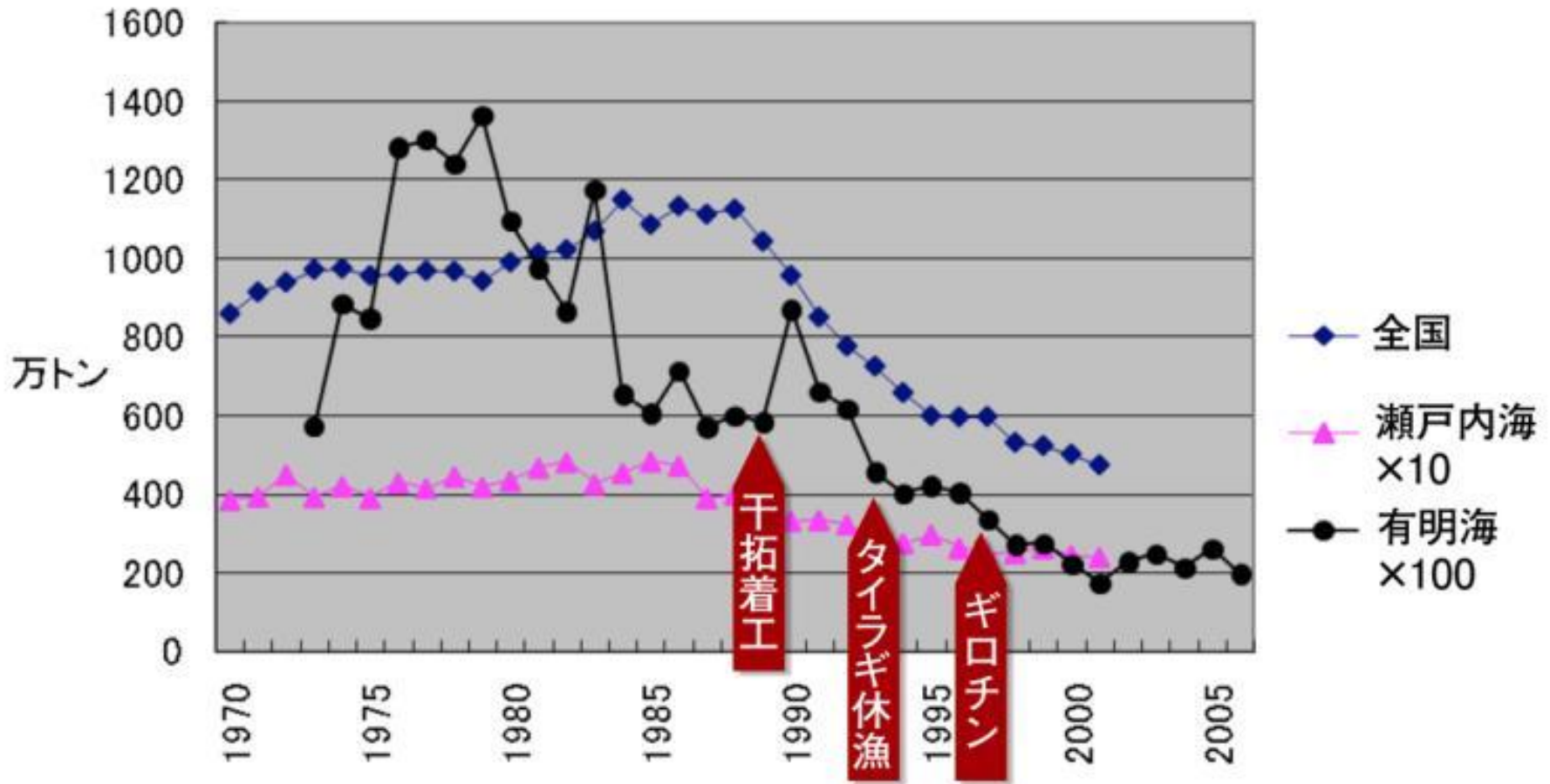
＞放置できない多様な被害と損失の累積的な拡大

＞諫早湾干潟生態系の復元を通じた有明海＝

「宝の海」の再生に向けた夢ある将来ビジョン

を打ち出し、沿岸地域社会における新たな住民合意を、いかにして、つくり出していけるか？

潮受堤防工事着工以降、 激減する漁獲高



注: JEC<諫干検証委>第3回全体会議(2020年6月26日)、菅波完氏提供PP資料から。

有明海異変のメカニズム

- 諫早湾干潟＝魚介類の産卵・生育場所の喪失
- 潮受堤防閉め切りによる有明海奥部の潮流・潮汐の鈍化
- 調整池から富栄養化した淡水が諫早湾に放出
諫早湾から有明海奥部での赤潮の頻発・増大
→ 養殖ノリの色落ち
- 底層の貧酸素化
→ 魚介類の大量死
→ 2001年12月 農水省の第三者委員会が
「短期・中期・長期の開門」を提言

注：JEC＜諫干検証委＞第3回全体会議(2020年6月26日)、菅波完氏提供PP資料から。

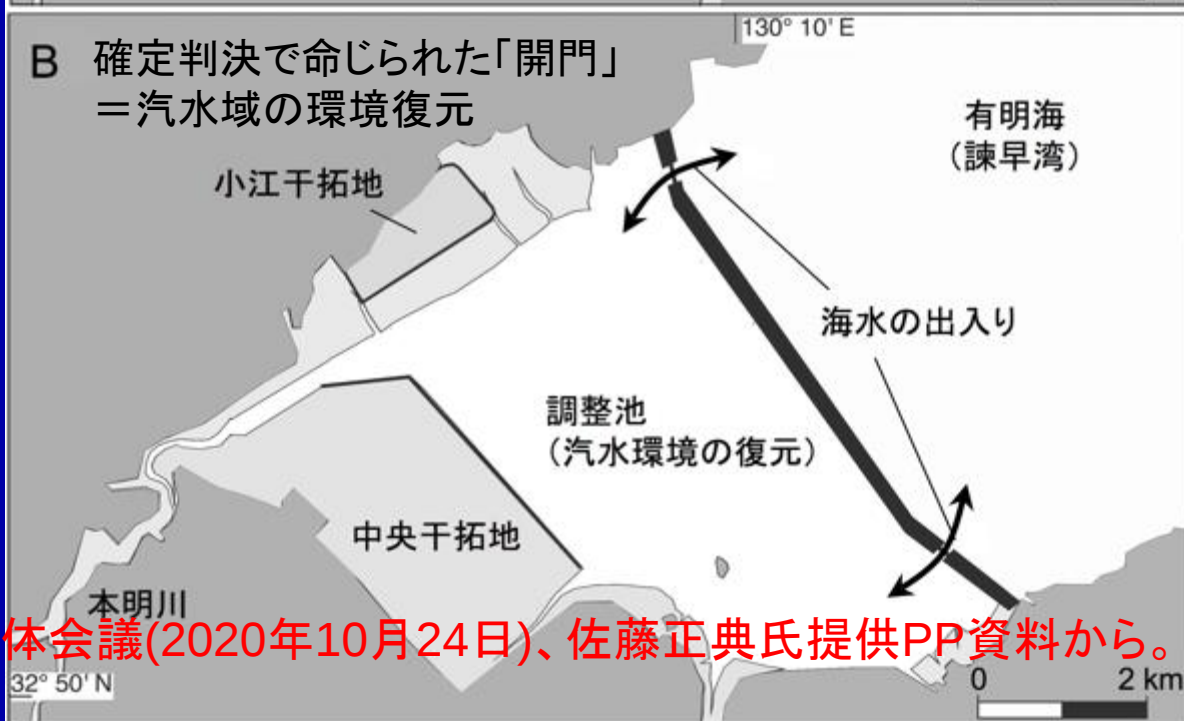
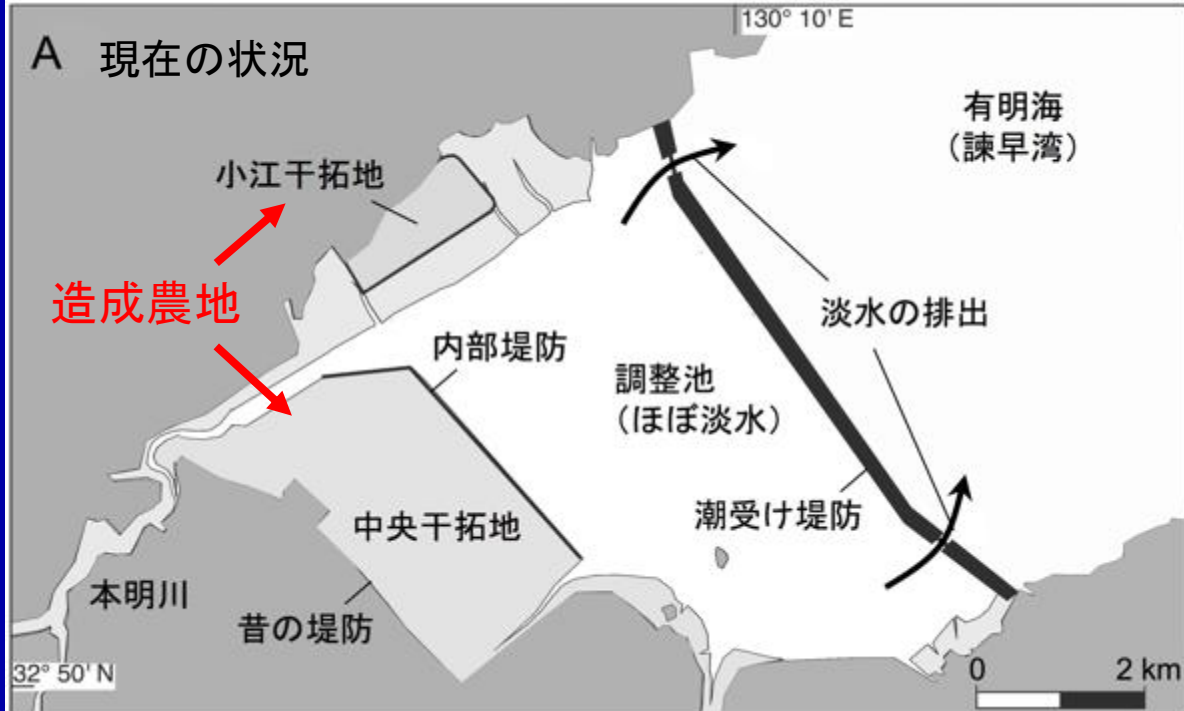
諫早湾の干潟復元の意義

「調整池」に汽水環境を復元させること

有明海の貴重な自然と伝統漁業を生かした地域振興への契機。

絶滅危惧種の「最後の砦」を守り、それらの分布拡大に向けた日本中の環境復元への契機。

注：JEC＜諫干検証委＞第7回全体会議(2020年10月24日)、佐藤正典氏提供PP資料から。



『建築ジャーナル』特集企画案
(2021年4月号)(予)



「諫早から日本が見える」

1997年4月14日を忘れない (仮)

* JEC＜諫干問題検証委＞メンバー等による特集論稿の7本の掲載

(原稿提出締め切り: 2021年2月20日)

* 特集座談会(2021年1月21日)の収録、など
「諫早湾・有明地域再生ビジョンへの提案」
(佐藤正典・田中克・保母武彦・寺西俊一)

<JEC<諫早検証委>報告書の第一次目次構成案（2020年11月現在、by 寺西）>

まえがき（寺西）

序 章：「宝の海を再び！——日本一の干潟を取り戻そう」（仮）（保母）

第Ⅰ部：「改めて諫早湾干拓を問い直す」（仮）

第1章：「諫早湾干拓の歴史的経緯と財政問題」（仮）（宮入）

第2章：「諫早湾干拓の『防災機能』とより効果的・本来的な対策」（仮）（菅波）

（補論）：「近年の豪雨災害と急がれる流域治水への転換」（仮）（森）

第3章：「干潟の復元・再生による夢ある未来の選択へ」（仮）（嵯山）

第4章：「事業を中止させた宍道湖・中海の経験にどう学ぶか」（仮）（関）

第Ⅱ部：「諫早湾干拓によって何が失われたか」（仮）

第5章：「諫早湾干潟生態系の価値喪失とその復元・再生」（仮）（佐藤）

第6章：「ますます悪化する調整池の水質と有明海的环境異変」（仮）（高橋・堤）

第7章：「失われる有明海の水産資源の多様性」（仮）（西林）

第8章：「沿岸の漁業・漁村への深刻な諸影響」（仮）（中山・大森）

第Ⅲ部：「諫早湾干拓が地域の経済・社会に何をもたらしたか」（仮）

第9章：「諫早地域経済社会の変容と展望」（仮）（石倉）

第10章：「諫早地域における農業のこれまでとこれから」（仮）（藤谷）

第11章：「干拓地営農の実情と問題点」（仮）（羽島）

第12章：「住民合意にもとづく干潟と地域の未来」（仮）（渡邊・川尻）

第Ⅳ部：「諫早湾干拓をめぐる法的諸課題」（仮）

第13章：「環境回復をめぐる紛争における司法の役割——諫早湾干拓紛争における
司法の可能性——」（仮）（長島）

第14章：「持続可能な社会の形成とアセスメント制度再構築の課題——干潟再生に
アセスメント制度が役割を果たすために——」（仮）（磯野）

第15章：「参加型自然再生をめぐる権利と仕組み」（仮）（大久保）

第16章：「ラムサール条約を含む自然環境関連条約の役割」（仮）（磯崎）

終 章：（寺西・山下）

あとがき（山下）

~~~~~

# **JEC＜諫干検証委＞報告書におけるWT①の草稿執筆に向けて**

まえがき（寺西）

序 章：「宝の海を再び！——日本一の干潟を取り戻そう」（仮）（保母）

## **第Ⅰ部：「改めて諫早湾干拓を問い直す」（仮）**

第1章：「諫早湾干拓の歴史的経緯と財政問題」（仮）（宮入）

第2章：「諫早湾干拓の『防災機能』とより効果的・本来的な対策」（仮）（菅波）

（補論）：「近年の豪雨災害と急がれる流域治水への転換」（仮）（森）

第3章：「干潟の復元・再生による夢ある未来の選択へ」（仮）（碓山）

第4章：「事業を中止させた宍道湖・中海の経験にどう学ぶか」（仮）（関）

# JEC＜諫干検証委＞報告書におけるWT②の草稿執筆に向けて

## 第Ⅱ部：「諫早湾干拓によって何が失われたか」（仮）

第5章：「諫早湾干潟生態系の価値喪失と復元・再生」（仮）（佐藤）

第6章：「調整池の水質悪化と有明海の環境異変」（仮）（高橋・堤）

第7章：「失われる有明海の水産資源の多様性」（仮）（西林）

第8章：「沿岸の漁業・漁村への深刻な諸影響」（仮）（中山・大森）

## **JEC＜諫干検証委＞報告書におけるWT③の草稿執筆に向けて**

### **第Ⅲ部：「諫早湾干拓が地域の経済・社会に何をもたらしたか」（仮）**

第9章：「諫早地域経済社会の変容と展望」（仮）（石倉）

第10章：「諫早地域における農業のこれまでとこれから」（仮）（藤谷）

第11章：「干拓地営農の実情と問題点」（仮）（羽島）

第12章：「住民合意にもとづく干潟と地域の未来」（仮）（渡邊・川尻）

## JEC＜諫干検証委＞報告書におけるWT④の草稿執筆に向けて

### 第IV部：「諫早湾干拓をめぐる法的諸課題」（仮）

第13章：「環境回復をめぐる紛争における司法の役割  
—諫早湾干拓紛争における司法の可能性—」（仮）（長島）

第14章：「持続可能な社会の形成とアセスメント制度再構築の課題  
—干潟再生にアセス制度が役割を果たすために—」（仮）（磯野）

第15章：「参加型自然再生をめぐる権利と仕組み」（仮）（大久保）

第16章：「ラムサール条約を含む自然環境関連条約の役割」（仮）（磯崎）

# JEC<諫干検証委>の今後の予定(案)

\* 2021年01月21日：『建築ジャーナル』特集座談会（Zoom）実施（その後編集へ）

\* 2021年01月23日：<諫干検証委>第10回全体会議（Zoom）（WT①草稿検討）

\* 2021年02月19日：福岡高裁差戻審 第5回弁論期日＋報告集会

\* 2021年02月20日：<諫干検証委>第11回全体会議（Zoom）（WT②&③草稿検討）

>『建築ジャーナル』特集掲載論稿の提出締切

\* 2021年03月13日：<諫干検証委>第12回全体会議（Zoom）（WT④草稿検討）

\* 2021年04月02日：第1回森里海を結ぶフォーラム「講演のつどい」（於・諫早市）

\* 2021年04月03日：第1回森里海を結ぶフォーラム「植樹祭&全国交流会」等

\* 2021年04月04日：第1回森里海を結ぶフォーラム「絶滅危惧種円卓会議」

\* 2021年04月10日：<諫干検証委>報告書に掲載する原稿の最終提出締切

（以降、順次、各原稿の査読・編集・リライト要請等の作業へ）

\* 2021年04月24日：<諫干検証委>第13回全体会議（Zoom会議）（報告書案検討）

\* 2021年04月28日（仮）：福岡高裁差戻審 第6回弁論期日＋報告集会

\* 2021年05月22日：<諫干検証委>第14回全体会議（Zoom会議）（報告書完成版）

\* 2021年06月19日：<諫干検証委>第15回全体会議（Zoom会議）（提言書等検討）

\* 2021年07月24日：<諫干検証委>第16回全体会議（Zoom会議）（提言書等検討）

>2021年秋（時期未定）：「第37回日本環境会議九州大会」（仮）の開催を  
検討できないか？